

研究成果展開事業  
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型  
スタートアップ・エコシステム形成支援

2022年度採択プラットフォーム

令和3年度補正予算 実施報告書

「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム  
(MASP)」

2024年12月6日

## I. プラットフォーム名、主幹機関、共同機関 等

プラットフォーム名	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)
主幹機関	東北大学 【総括責任者】 理事 遠山毅 【プログラム代表者】 副学長 湯上 浩雄
共同機関	弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北大学ナレッジキャスト
評価対象の活動期間	2022年6月15日～2023年3月31日

## II. 活動の概要

①起業活動支援は、ベンチャー創出に向けた起爆剤機能として活用し、令和3年度実施のみちのくGAPファンドの採択数・支援額を大幅に増やし、通常枠@約500万円×27件、特別枠@約2,000万円×2件を採択した。また、伴走型支援として、チームビルド人材プログラムと創業CxO発掘プロジェクトを追加で実施した。さらに成果発表会として、みちのくDEMODAY(@仙台)を単独開催し、TOHOKU STARTUP NIGHT(@東京)を仙台市と共催した。結果として現時点で2件(2社)が起業に至った。③起業環境整備では、試作のためのプロトタイプデザイン教育研修のプログラムを新規に開発した。

## III. 活動内容と成果

### 1. スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに対する貢献

みちのくGAPファンドからの起業は累計7社となっており、スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョン「仙台・東北から世界を変えるスタートアップが生まれ、世界中からソーシャルイノベーターが集う都市へ」の活動の柱の一つである、大学の技術シーズの事業化・産業化を支援し、大学発の革新的技術・アイデアによる創業に大きく貢献している。

うち2社が、みちのくGAPファンド令和4年度(令和3年度補正予算)の支援案件である。起爆剤効果により件数・金額を大幅に実施しており、その支援案件の中には過去のみちのくGAPファンドの支援案件も含まれており、今後の起業が見込まれる。

### 2. 起業活動支援プログラムの運営

みちのくGAPファンドで想定される領域は、社会的ニーズが大きくイノベーションが期待される領域、各大学が強みとする研究・技術領域、学際的な新規事業領域である。みちのくGAPファンドでは、これらの領域の案件を支援している。

結果として、直接支援案件以外からの起業活動も活発化し、東北・新潟地域に所在する大学等発スタートアップは+92社と大幅に増えており、当初目標である+200社の達成に向けて、順調に推移している。なお、東北・地域の本社所在地ベースでは+60社であり、前出のそれと比べると増加の伸びは低位であり、地域内に本社所在するための取り組みも行っていくたい。

本みちのくGAPファンドでは全10大学から合計45件(通常枠41件、特別枠4件)の申請があり、書類審査および審査会を経て29件(通常枠27件、特別枠2件)を採択した。本GAPファンドでは①社会的ニーズが大きくイノベーションが期待される領域、②各大学が強みとする研究・技術領域、③学際的な新規事業領域を主な対象領域と設定しており、45件の分野内訳としてはライフサイエンスが一番多く25件、製造技術5件、AI・ロボット4件、環境3件、ナノテク/材料・情報通信・社会基盤・その他が2件ずつとなった。

伴走支援では、下記のプログラムを行った。

#### ① チームビルド人材プログラム

2回のワークショップを通して、採用・チームビルドにおける「採用者側のマインドセット」と「採用の具体手法」の両面を学び、自己に投影・落とし込みをする機会を提供。東北大学と新潟大学でハイブリッド開催。

## ② 創業CxO発掘Project

大学発創業前スタートアップの技術シーズを紹介し、技術シーズを保有する研究者と、創業CxO候補との出会いを創出するためのプログラムを実施。セミナーによる技術シーズの紹介、その後、個別の面談による創業メンバー獲得をサポート。

また、DEMODOYについては以下の通り行った。

### ① みちのくDEMODOY

- A) 日時: 2023年2月17日(金) 13:30~17:00
- B) 形式: 仙台国際センター(〒980-0856宮城県仙台市青葉区青葉山無番地)  
およびZoomによるオンライン配信
- C) 参加人数: 98名(会場)、213名(オンライン)
- D) 内容: みちのくGAPファンド公式報告会の場として、プラットフォーム内外の支援者や事業会社、投資家等を対象に、「みちのくDEMO DAY」を実施。代表のピッチ発表のほか、本プラットフォームの活動成果の紹介など、東北・新潟のスタートアップ・エコシステム構築に向けた取り組みを紹介した。基調講演には、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター長・落合陽一氏に「大学の知の社会実装」と題してご講演いただいた。

### ② TOHOKU STARTUP NIGHT2023

- A) 日時: 2023年3月16日(木) 16:00~21:00
- B) 形式: CIC TOKYO(東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー15階)  
Zoomによるオンライン配信
- C) 参加人数: 345名
- D) 内容: シード期の大学発スタートアップ等を対象に、東京でマッチングイベントを開催することで、首都圏の支援人材、ベンチャーキャピタルや大企業との連携を促進し、事業化に向けた人材確保や資金調達、事業提携の機会を提供した。また、仙台市主催の東北グロースアクセラレーター事業(TGA)の東京Demo Dayの開催と合わせ拡大して開催することで、東北地域の大学発スタートアップと首都圏の大企業等とのマッチングをより効果的に実施した。

## 3. 起業環境の整備

みちのく10大学における起業相談窓口を整備した。大学内の相談先の一例として、事業相談、知財相談、Slackコミュニティなどの窓口を組織的に整備した。

起業関連諸ルール(兼業・クロスアポイントメント規程、株式保有ルール、共同研究規約、知的財産関連規約等)やこれらを有効に機能させるための運用体制は、各大学独自の取組が前提となるが、令和3年度補正予算では、参画大学にアンケートを実施し、各大学の整備状況を表で共有しながら、各大学持ち回りの教育系現地対面ミーティング等で進捗確認をフォローした。

試作相談体制としては、産総研(東北センター)を介してみちのくの公設試と連携する方針を立てた。ギャップファンド支援を受けた起業希望者が技術評価や試作製作を行う場合、適切な技術指導を受け入れる公設試の探索に、『全国鉱工業公設試験研究機関 保有機器・研究者 情報検索システム』を活用することとした。

さらに、民間の試作相談窓口として、東北大学に常駐する『菊池製作所』に相談できる体制も構築し、試作のためのプロトタイプデザイン教育研修(構成内容: 1. 方向の決定 2. コンセプト立案 3. プロトタイプ製作 4. プロトタイプ練り上げ 5. テスト・評価 6. 量産設計・量産試作)を新規に開発した。当該プログラムはその場限りではなく、広域な地域への浸透を図り、事前学習教材として提供できるようにした。なお、設備機器等の新規整備は特に行わず、前記公設試等の設備を有効活用する方針とした。

その他、組織運営、教育プログラム、起業環境整備、持続的な取組に関して外部評価委員会からコメントを頂戴し、その後の事業展開に担当者と協力して反映させることにした。